平成２８年　７　月　６　日

運輸審議会
　会長　　鷹箸　有宇壽　殿

公　述　申　込　書

運輸審議会一般規則第３５条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

１　公述しようとする事案
　事 案 番 号　　平２８第４００１号
　事案の種類　　軌道運送高度化実施計画の認定
　事案の申請者　　宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

２　公述しようとする者　*※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照*
　(ふりがな)　　(きよはらちいきしんこうきょうぎかい　きよはらちくじちかいれんごうかい
　　きよはらちくじちこうみんかんれんらくきょうぎかい　だいひょう　こもん　すわ　としお)
　氏　　名　「清原地域振興協議会」「清原地区自治会連合会」
　　「清原地区自治公民館連絡協議会」　代表（顧問）　諏訪　利夫
　(郵便番号)　〒[redacted]
　住　　所　[redacted]
　職　　業　行政書士
　年　　令　７２　　歳

国土交通省
運輸審議会 27
28.7.6

３　事案に対する賛否
　　賛　成

４　利害関係を説明する事項　*※利害関係人のみ記入（注意事項③参照）*

５　自宅、勤務先等の連絡先電話番号
　自宅：　[redacted]

公述人　諏訪利夫

私は、「清原地域振興協議会」「清原地区自治会連合会」また「清原地区自治公民館連絡協議会」の３つの団体、つまり清原地区を代表して、LRT の早期実現を目指す立場から意見を述べさせて頂きます。

世は正に車の時代からレールの時代へと大きな転換期を迎えております。自動車大国と言われている、あのアメリカでさえ、高速鉄道や LRT へと、大きくレールに舵を切っているところであります。とりわけ LRT は、地球環境にやさしい乗り物と言うだけでなく、バス等の様に渋滞に巻き込まれず、速達制、定時制、大量輸送が可能となり、新たな都市公共交通の基幹システムとして大きな魅力があります。更に、宇都宮市が目指すネットワーク型コンパクトシティは、この基幹システムに地域内交通やバス、タクシー、自転車等が乗り継ぎ出来る、交通結節機能を強化することによって、高齢者をはじめ、生活弱者の移動を容易にさせることが出来ます。

さて、私の住む清原地区は、宇都宮市の東部に位置

し、豊かな鬼怒川の清流と、肥沃な農地に恵まれ、市内有数の農業生産地帯でございます。一方で、我が国の内陸型最大級の工業団地である「清原工業団地」を擁しており、栃木県の工業生産の要であるとともに、宇都宮市にもたらす税収は多大であります。地域内には、作新大学、同短期大学、農業大学校、県立清陵高校、私立宇都宮海星女子学院の高等教育施設と合わせ、市立の小中学校が５校あります。昨今では、小学校の統廃合が当たり前の中にあって、当地区では平成３３年度開校の小学校新設が去る６月３０日の市教育委員会臨時会で決定したところです。即ち、当地区は人口急増地帯でもあります。更に、サッカーJリーグに対応した栃木県グリーンスタジアム、プロ野球公式戦の巨人戦も開催されている清原球場、２０００人規模の観客を動員して開催されるプロバスケ公式戦の会場である清原体育館等々を擁し、文化学園都市としても発展を続けております。

このように発展を続ける清原地区ですが、決して行

政に任せ、頼り切る街づくりではなく、住民のちからを結集したまちづくり、地区づくりを展開してきました。その幾つかの例を申し上げますと、毎年行われる宇都宮マラソン大会においては、７０００人規模の参加者を、地域を挙げてのおもてなし、開催支援として、地区ならではの伝統食文化、「鬼怒の船頭鍋」の無料ふるまい。また、自転車ロードレース「宇都宮クリテリウム」の協力支援、更には、地区の住民が主体となり、NPO 法人飛山城跡愛護会を設立し、指定管理者として国の指定史跡「飛山城跡」の経営を担い、毎年恒例の「きよはら飛山まつり」をはじめ、多くのイベントを提供して、地域の歴史文化の高揚に貢献しております。

このような中にあって、本市の基本政策であるネットワーク型コンパクトシティの決め手ともなる、公共交通ネットワークとして、地区組織の運営により、市内で最初の地域内交通「清原さきがけ号」の運行を平成１９年に定時定路方式により開始、更に２１年には

デマンド方式の「板戸のぞみ号」も運行を開始しました。以降、清原地区のこの取り組みがモデルとなり、市内全域において地域内交通が開始されることになりました。現在、１２地区１３路線において運行されております。このことは正に、従来から公共交通がぜい弱であり、自動車での移動に頼らざるを得なかった清原地区において、LRT 事業に賛成し期待を寄せるだけでなく、地区自らが、これからの交通のあり方を真剣に考え、地区一体となって取り組んできた姿勢が、地域内交通の必要性と成功への先鞭となったと申し上げたいのであります。

このような清原地区は、行政が展開してきた事業と共に歩み、独自の発想でその事業に大きな付加価値を生み出してまいりました。このことは、宇都宮市全域に貢献し、地区自らの行動を通して、住民一人ひとりの幸せと、地区の住民の支え合いによる心豊かな地域環境を実現してきたと自負しているところです。

この中にあって、清原地区に隣接する芳賀町と共に

取り組むLRTの整備は、公共交通ネットワークの主軸であると認識し、この事業が交流人口を増加させる追い風となることは確かであり、清原地区住民の悲願であった、新たな街おこしのチャンス到来と捉え、将来にわたる発展の大きな礎にして行きたいと決意しております。

ところで、LRTに慎重な意見の中には、需要を懸念する声があるようですが、ここは清原、芳賀高根沢の巨大工業団地を擁し、大学、高校や大型のスポーツ施設等が整備されている他、毎年３０万人に及ぶ観客が駆けつける宇都宮花火大会や宇都宮マラソン大会等々の大型イベントがLRTの沿線に目白押しであります。更に宇都宮市は沿線開発も積極的に推進する意向と聞いております。これらのことからして、JR宇都宮駅、更に駅西への通勤、通学はもとより、生活移動ニーズを含めると計り知れない需要が見込まれるものと確信しております。更には、真岡市、市貝町、益子町、茂木町等の住民も「芳賀町、清原地区まで行

けば公共交通移動が可能になる」との期待感は大きなものと聞いており、このLRT事業が本市や清原地区にとってだけでなく、栃木県東部にとっての公共交通の大動脈として、人の動きを力強く生み出す都市の装置になることは間違いのないところであります。

以上申し上げてまいりましたが、芳賀・宇都宮LRTは、清原地区、宇都宮市、そこに住み、働き、学び、憩う人々にとって、日々の生活に必要不可欠な生活機能であると同時に、宇都宮市、栃木県の地方創生の起爆剤として、大きな役割を果たすものであると確信しております。

これまでの清原地区がそうであったように、これからも私たち清原地区は、地区住民はもとより、宇都宮市民の、栃木県民の幸せと発展に貢献することが出来るよう、このLRT事業の実現と発展に、最大限の協力をしていく所存であります。この事業と共に歩んで行くことが、真の地域街づくりの原点であり、新たな清原地区の発展に繋がることだと確信しております。

最後に、今後とも国、県、市においては、LRT 整備の早期実現に向け、着実に事業を推進していただきたいと強く申し上げて、私の公述人としての陳述を終わります。